

討 論

第54号議案・平成24年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定、第55号議案・平成24年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定

反対 水落 孝子

第54号議案「反対」の理由として、1点目は職員給料カットである。全力を挙げた復旧・復興元年であり、東日本大震災による非常事態の中で、職員が一丸となって働いた結果に対し、給料削減はひどいと考える。公務員給与の引き下げは官民較差を理由にした引き下げ競争に拍車をかける結果にしかならないと思うからである。

2点目は市税の増収を図る努力が足りないのではないか。

デフレからの脱却も実感を持っていない現状の中で、消費税率アップは市民生活を苦しめるもので、収入を増やす政策、施策が必要だと考える。

雇用増に取り組んでいるが、正社員でなければ市税の増収は望めない世の中であるため、正社員増という努力がほしいと考える。

3点目は介護保険料の大幅値上げである。保険料収入が約39%の増に対し、保険給付費は約8.6%の増にとどまっている。その結果介護保険財政調整基金の増額となり、これは第6期保険料算定時に取り崩す。

しかも、それでも、3年ごとに介護保険料は上がっていくという介護保険制度の仕組みに反対である。

次に、第55号議案「反対」の理由としては、水道事業において、供給水量の有収率の低さに

対する明確なアップを図る計画が示されなかったこと、老朽管の布設

替えや施設整備についての計画があるかもしれないが、示されなかったことに不安と努力不足を感じるからである。

また、公営企業の性格として、受益者負担で賄える額ではないことから、補助事業を国に要望しているのだから、早期の計画提示を求める。

下水道事業は、越河地区農集排の水洗化率では、公営企業は成り立たない水準と考える。よって両案に反対である。

賛成 佐久間 儀郎

第54号議案賛成の理由として、厳しい財政環境下において、自主財源をはじめ依存財源の確保に懸命に努力され、一方、歳出は管理経費の抑制に努め、財

政運営の効率化が図られた決算だと思っている。

平成24年度の収入未済額は一般会計及び特別会計を合わせ8億4千17万3千円で、前年度と比べて1億3千70万1千円減少している。

これまでは増加傾向にあったが、滞納者への督促や催告状の送付、納付の利便性を高めた夜間窓口の浸透、訪問徴収や強制執行などの地道な徴収対策が功を奏し、収入未済額が減少したと思っている。

一方、不納欠損額は、一般会計では前年度と比べ406万5千円増加したが、特別会計では1千266万9千円減少している。負担の公平、歳入の確保の観点から、不納欠損は慎重かつ厳正に行われることが求められるが、滞納の実態に即し、的確に行われたと思っている。

平成24年度は東日本大震災からの復興元年として、市長初め職員が一丸となり、使命感を持って復旧・復興に取り組みされたこと、そして、限られた予算を効率的に、効果的に執行されたことに敬意を表するところである。

一例を挙げれば、市民のシンボルである白石城震災復旧工事を鬼小十郎まつりにあわせて完成させ、過去最高の約9千人の観光客を誘客したところである。

次に、第55号議案賛成の理由としてはまず、事故繰越もなく震災復興に努め、市民生活の安定に努力されたことに感謝する。

水道事業会計では、有収率の低下が話題となった。有収率の低下は、震災に起因する家屋の減少や人口減少によるもののほか、老朽管による漏水も大きな

要因と思われる。老朽管の改修には多額の財源を要することから、老朽管改修も補助対象に加えられるよう、市長会等あらゆる機会に要望していただきたいと思う。また、議会としても、議長会や国会議員に要望していきたいと思っている。

一方、下水道事業会計では、農集排の水洗化率は建設当初を超える高齢化社会の進展に伴い、足踏みしているのが現状である。

今後、アンケート調査を行うとの事だが、この結果をもとに、家庭の事情を把握し、適切な助言をもって根気強く水洗化されるよう誘導していただくことを期待するところであり、水洗化率の向上に努め、企業の経済性を発揮するよう願う。

よって両案に賛成である。